

# 京都大学人文科学研究所共同研究最終報告書

## 1. 研究課題

近代天皇制と社会

The Modern Emperor System and Japanese Society

## 2. 研究代表者氏名

高木博志

TAKAGI Hiroshi

## 3. 研究期間

2013年4月 - 2017年3月

## 4. 研究目的

昨今、歴史研究において、天皇制を国家や社会とのかかわりで考えることが少なくなり、「天皇」個人や「天皇像」といった研究に流れがちである。そのようななかで、単なる政治過程ではない、「近代天皇制と社会」を対象とすることにより、日本の近現代を考えてみたい。ひとつには明治維新からアジア・太平洋戦争にいたる過程を、「近代天皇制と社会」から考えることで近代日本の特殊性や普遍性を再考する。近世後期から近現代までを見通して、町や村といった地域や、文化・宗教・思想・教育・社会運動・民俗などを視野に入れた広い意味での「社会」と天皇制との関係を考えてゆく。研究会では、もちろん「政治」の重要性を否定するものではない。政治史・教育史・文化史・思想史・運動史・美術史・植民地研究・民俗学・地域史などの諸分野の研究者とともに考えてゆきたい。

## 6. 研究成果の概要

3年間の共同研究B班と、まとめの1年間の共同研究C班を通じて、近代の天皇制を、単なる政治過程ではない、「近代天皇制と社会」を対象とし、町や村といった地域や、文化・宗教・思想・教育・社会運動・民俗などを視野に入れ、学際的な研究をおこなった。年間平均10～12回の研究会で、年間に約20人の報告者が発表した。巡見では吉野や河内長野の南朝遺跡、軍都金沢、佐紀古墳群の陵墓、京都周辺の慰霊施設などを訪れて、実地で「近代天皇制と社会」を考えた。また2015年度と2016年度には、韓国からパク・メンス、北海道から井上勝生両氏を迎え、日清戦争期の東学農民戦争や、アイヌ民族の同化政策をめぐるシンポジウムを実施した。研究成果として、「日清戦争と東学農民戦争」を特集する研究紀要『人文学報』と、約20篇の論文からなる高木博志編『近代天皇制と社会』（思文閣出版）を2017年度に編集・刊行予定である。

## 8. 共同研究会に関連した公表実績

共同研究会参加者の共同研究に関連した著作、編著

- ①高木博志編『近代日本の歴史都市—古都と城下町』(思文閣出版、2013年8月)[19篇の論考からなる、高木博志班長・近代古都研究班(平成18～23年度)の研究成果報告書]、
- ②市川秀之『「民俗」の創出』(岩田書院、2013年4月)、
- ③長志珠絵『占領期・占領空間と戦争の記憶』(有志舎、2013年6月)、
- ④河西秀哉編『戦後史のなかの象徴天皇制』(吉田書店、2013年11月)、
- ⑤尾谷雅比古『近代古墳保存行政の研究』(思文閣出版、2014年2月)、
- ⑥小林丈広編『京都における歴史学の誕生』(ミネルヴァ書房、2014年3月)、
- ⑦赤澤史朗・北河賢三・黒川みどり編『戦後知識人と民衆観』(影書房、2014年6月)、
- ⑧高階秀爾・芳賀徹・老川慶喜・高木博志編『鉄道がつくった日本の近代』(成山堂書店、2014年11月)、
- ⑨幡鎌一弘『寺社史料と近世社会』(法蔵館、2014年12月)、
- ⑩John Breen, Mark Teeuwen 共著『Lo Shinto: una nuova storia』, Astrolabio Ubaldini, 2014、
- ⑪久留島典子・長野ひろ子・長志珠絵編『歴史を読み替える』(大月書店、2015年1月)、
- ⑫ジョン・グリーン『神都物語：伊勢神宮の近現代史』(吉川弘文館、2015年7月)、
- ⑬原田敬一『「戦争」の終わらせ方』(新日本出版社、2015年7月)、
- ⑭駒込武『世界史のなかの台湾植民地支配—台南長老教中学校からの視座』(岩波書店、2015年10月)、
- ⑮河西秀哉『皇居の近現代史』(吉川弘文館、2015年11月)、
- ⑯平山昇『初詣の社会史—鉄道が生んだ娯楽とナショナルリズム』(東京大学出版会、2015年12月)、
- ⑰小林丈広・高木博志・三枝暁子『京都の歴史を歩く』(岩波書店、2016年1月)、
- ⑱高木博志・谷川穰編『講座明治維新 明治維新と宗教・文化』(有志舎、2016年3月)[本研究会参加者5人が寄稿]、
- ⑲ ジョン・グリーン編『変容する聖地：伊勢』(思文閣出版、2016年5月)、
- ⑳『新修茨木市史 通史三』第三卷(茨木市、2016年7月)、
- ㉑幡鎌一弘・安田次郎編『祭礼で読み解く歴史と社会：春日若宮おん祭の九〇〇年』(山川出版社、2016年11月)、㉒今尾文昭・高木博志編『世界遺産と天皇陵古墳を問う』(思文閣出版、2017年1月)、など。

## 15. 研究成果公表計画および今後の展開等

研究成果公表計画および今後の展開等 「日清戦争と東学農民戦争」を特集する研究紀要『人文学報』と、約20篇の論文からなる高木博志編『近代天皇制と社会』(思文閣出版)を2017年度に編集・刊行予定である。次の共同研究は、東京遷都まで天皇が居住し朝廷の

人々が生活した、「古都京都の近代」を対象として、政治や社会をも視野に入れつつ、広い意味での「文化」をめぐる学際的な共同研究へと発展させたい。